

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科
科目名称	園芸療法実習 [Practice in Horticultural Therapy]			実務経験教員担当	○ アクティブラーニング ○
科目コード	218520	授業形態	実習	単位数	2
教員氏名	林 典生			学位授与の方針との関連	DP3(1) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)
授業概要	<p>医療・保健・福祉・生涯学習の現場で、園芸療法・福祉の実践を行ってきた経験に基づいて、幅広い教養と専門性を持ち、一緒に問題解決を行える人材を育てるための実習指導を行う。</p> <p>実習において学ぶ内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 園芸療法とはガーデニング活動も含む園芸活動でかかわる人のいいところを見つけ、自信につなげていくと共に、みんなで支えあう社会づくりを行うことを目的としていること。 2. その目的を達成するためには、子どもから高齢者までであろうがいの有無を問わずに活動実践を行うことが必要であり、対象となる人々の理解やそれを取り巻く環境および支える制度等を理解した上で、実践できること。 3. これらの人に関わることを理解した上で、ガーデニング活動も含む園芸活動を行う上で注意すべき点等も含めた活動の流れを理解した上で、活動打ち合わせ・準備から片付け・振り返りまで実施出来ること。 4. 実際にガーデニング活動も含めた園芸活動を地域社会で実践して、参加者からの反応や受講生同士の振り返りの中で、客観的に自己評価できること。 <p>【知識・理解の活用、課題解決】 【汎用的技能、諸要因探求】 【人間力、他者と協調】</p> <p>* 近畿圏内の複数の医療・保健・福祉・生涯学習の現場での勤務（社会福祉士・精神保健福祉士と中学校・高等学校教員免許に基づいて）やボランティア活動のなかで園芸療法・福祉の実践を行ってきた。現在も都城地区周辺を中心に実践や人材育成を行っており、それに基づいて実習内容を改良を行っている。</p>				
関連する科目	園芸療法論を事前に履修するか同時に履修すること				
授業の進め方と方法	授業開始前に毎回のレポートを提出した後、授業開始後10分間は授業開始前の小テストを実施する。その後授業開始前の小テスト、毎回のレポートならびに前回の授業終了後の小テストの解説を授業内容と関連付けて行う。授業を実施し、授業終了10分前に次回提出するレポート課題を説明し、授業終了後の小テストを実施する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1・2. コミュニケーション演習 1回目 受講生向けオリエンテーション、コミュニケーションスキルに関する演習 園芸療法実習受講にすにあたり注意すべき点を理解するとともに、自己開示する。 3・4. コミュニケーション演習 2回目 コンフリクトのある事例に関するグループ演習 多種多様な立場の見方を体験することで、お互いの意見を尊重しあうことを体験する。 5・6. コミュニケーション演習 3回目 当事者のライフヒストリー事例に基づくグループ演習 本人の思いを聴き取り、本人の思いを丁寧にくみ取ることを習得する。 7・8. ケアマネジメント演習 1回目 ケアマネジメントの流れの説明・意見交換 ケアマネジメントの流れについて説明し、事例に基づいて考える。 9・10. ケアマネジメント演習 2回目 アセスメント・実施計画作成演習、チームアプローチ・モニタリング演習 事例を用いて、アセスメント・実施計画およびチームアプローチ・モニタリングを体験する。 11・12. 社会資源開発演習 1回目 企画シート作成説明。企画シート作成演習 地域の社会資源を調査し、これらの社会資源を活用した企画を考える。 13・14. 社会資源開発演習 2回目 企画シート発表・意見交換、意見交換に基づき企画シート完成 前回の企画作成に続き発表を行った後に、意見交換を行い企画を仕上げる。 15・16. リスクマネジメント演習 1回目 活動現場事例に基づいた苦情受付・解決演習 事例を用いて、リスクマネジメント予防及び事後対応の流れを習得する。 17・18. リスクマネジメント演習 2回目 避難所運営ゲーム体験、体験に基づく意見交換 避難所運営ゲームを体験して、コミュニケーションとマネジメントの大切さを習得する。 19・20. 活動プログラム体験（栽培系・クラフト系）栽培系プログラム体験、クラフト系体験プログラム 栽培系プログラムとクラフト系プログラムを体験・意見交換後、プログラム作成に関する動機付けを行う。 21・22. 年間活動プログラム作成演習 課題説明、課題解決に向けた年間プログラム・活動場所プラン作成 事例を用いて、年間活動計画作成を行う。 23・24. 年間活動プログラム作成・発表演習 年間プログラム・活動場所プラン発表・意見交換 作成した年間活動計画を作成・意見交換を行い、年間活動計画を完成させる。 25・26. 活動プログラム企画・立案・発表 個別活動プラン（栽培系・クラフト系）作成・意見交換 完成させた年間プログラムの中から、栽培・クラフト系プログラムを選択・作成・意見交換を行う。 27・28. 活動プログラム準備・実践・振り返り（栽培系）作成したプランに基づき準備・実施・意見交換 作成した栽培系プログラムの準備・実践を行った後に、意見交換を行う。 29・30. 活動プログラム準備・実践・振り返り（クラフト系）作成したプランに基づき準備・実施・意見交換 作成したクラフト系プログラムの準備・実践を行った後に、意見交換を行う。 				
授業の到達目標	子どもから高齢者までであろうがいの有無を問わず誰もがガーデニング活動も含む園芸活動でかかわる人のいいところを見つけ、自信につなげていくと共に、みんなで支えあう社会づくりを行うことを理解した上で、実践できていること。				
授業時間外の学修	毎回の授業終了時に、事前に課題を提出するので、まとめたレポートを作成すること（目安時間は30分以内）。また、授業終了後に授業内容に関する課題を提出するので、それを調査し考えたことをまとめたレポートを作成する（目安時間は30分以内）。				
課題に対するフィードバック	毎回のワークショップの発言内容等は実施中にコメントや板書等で説明し、レポートは各授業中に解説を実施する。また、最終レポートはレポート作成終了後に解説を実施する。	評価方法・基準	ワークショップ発言内容・参加態度（記録メモ等に基づき評価） 15回×2点 計30点、毎回のレポート 15回×3点 計 45点、プログラム企画・実践・振り返りに関する最終レポート（授業中に作成） 計25点 合計100点で成績評価を行う。 なお、遅刻・早退や激しい私語等授業態度が悪い場合は本人に伝えた上で減点する。		
テキスト	園芸療法論テキスト（担当教員が毎回作成し、配布する）				
参考書	国民の福祉と介護の動向 2016/2017 厚生労働統計協会 Horticulture as Therapy: Principles and Practice 1998 Sharon Simson, Martha Straus CRC Press (都城キャンパス図書館に所蔵あり) 生活行為向上力の見つけ方（一作業・環境・園芸療法の理論とプログラム） 2015 藤原茂・山口県園芸療法研究会 青海社				
備考	担当教員は過去に近畿圏内の複数の医療・保健・福祉・生涯学習の現場で勤務（社会福祉士・精神保健福祉士と中学校・高等学校教員免許に基づいて）やボランティア活動しながら園芸療法・福祉の実践を行うとともに、現在も都城地区周辺を中心に実践や人材育成を行っており、それに基づいて改良しながら実施している。				